

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1丁目)

事業所番号	0290100148		
法人名	有限会社 なみおかケアサービス		
事業所名	グループホームえにしの里		
所在地	青森市浪岡大字北中野字北島27		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が笑顔で安心して、明るく、その人らしく生活できるようなケアを心掛けています。利用者の意思を尊重し、自由で、居心地良く、幸せを感じていただける場になればと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年11月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「皆様と出会えたご縁を大切にします。笑顔で安心して、その人らしく生活できるようお手伝いします。地域の方が気軽に立ち寄ることのできる家(里)を目指します。」というホーム独自の理念を掲げ、職員はその意味を理解した上で日々のケアに反映させている。また、毎日の生活の中から利用者の思いや意向、希望等の把握に努め、その都度話し合いを持ちながら、利用者一人ひとりが居心地良く、笑顔で過ごせるように、日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、前回外部評価後より半年間、朝・夕に皆で唱和し、職員間にて共有するよう努力をしている。しかし、理解はできたが、取り組みには不足している所がある。	管理者及び職員が一緒に作成したホーム独自の理念を掲げており、玄関等への掲示やミーティングで唱和する等して、理解を深めるように取り組んでいる。理念は「地域の方が気軽に立ち寄ることのできる家(里)を目指す」という地域密着型サービスの役割を反映させたものであり、職員は日々のケアに活かせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や、その他の催し物等の鑑賞に出掛けている。地域の方々が気軽に立ち寄ってもらえるまでには至っていないが、広報紙を発行し、周知を図るよう努力している。	地域の運動会等の催し物へ積極的に出掛けている他、ホームの納涼祭に地域住民を招待したり、近隣の高校生ボランティアを募る等、地域との交流やホームの周知を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも施設を見学できるよう対応していると共に、行事等でボランティアを受け入れる努力をしている。その際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行っており、地域の方も参加している。会議では報告や情報交換を行う他、メンバーの意見を引き出し、それを今後の取り組みにつなげるよう努力している。	運営推進会議は町会長、老人会、市職員、地域包括支援センター職員、利用者家族がメンバーとなり、2ヶ月に1回開催し、欠席者には会議録を配布している。会議では入居者の近況やホームの取り組み、行事等の報告をして意見交換を行い、サービスの質の確保・向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市職員や地域包括支援センターの職員が参加している。また、自己評価及び外部評価結果を提出し、報告している。	困難事例等があれば、運営推進会議の際やその都度相談し、助言を得ている。また、自己評価・外部評価結果を提出している他、パンフレットや広報誌を市役所・地域包括支援センターへ配布している。	

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>利用者の外出傾向を察知した時には職員が付き添う等の支援をしている。施錠は行っておらず、玄関は夜間だけ時間を決めて行っており、それ以外は利用者は自由に出入りできるようにしている。</p>	<p>身体拘束についてのマニュアルを作成し、勉強会を定期的に行い、その内容や弊害について理解を深めている。玄関は夜間のみ施錠し、日中は自由に出入りできるようにしており、鈴を付けて戸の開閉がわかるように工夫している。また、日頃から散歩の機会を利用して近隣住民に利用者の顔を覚えてもらい、協力が得られるよう働きかけている。身体拘束の事例は今までないが、やむを得ず行う場合に備え、体制を整備している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待を決して行わないという意識を持って介助を行っている。また、内部・外部の研修への参加を促し、虐待について理解するように努め、日頃から事故報告書やつぶやき白書の記入・提出により、細部にまで目が向けられるよう努力している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修への参加や勉強会を通じ、全職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深めるよう努力をしている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族等に施設内を案内すると共に、契約時には事業所の理念等、ケアの方針や取り組みについて説明を行っている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>自ら苦情を出せない利用者に代わり、日頃の発言によく耳を傾けるようにしている。また、意見箱を設置している。口頭での苦情の場合は用紙に記入し、速やかに対策を講ずる努力をしている。</p>	<p>ホーム内に意見箱を設置し、苦情対応について重要事項説明書にも明記している。職員は普段の会話の中で利用者がつぶやいたことを記録し、不満や意見等を察知するよう努めており、その都度対応している。また、利用者家族には面会時や手紙で利用者の状況報告を行っており、意見の把握に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で職員が意見を話す機会がある。しかし、意見が反映される仕組みは整えられていない。	月1回ユニット会議を開催し、職員が意見を話す機会を設けている他、年1回アンケートをとったり、施設長による相談会も行っている。また、利用者と職員の馴染みの関係が保たれるよう異動はなるべく行わず、勤務体制にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断を定期的実施すると共に、職員の日々の努力や勤務体制を把握している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の年間学習会開催計画を作成している。研修会参加後は、報告書を提出すると共に、報告会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	勉強会や研修会等に参加し、同業者との交流ができるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス相談があった時には、利用希望者や家族と面談し、利用希望者の身体状況や思い・希望・不安等を把握する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時には、利用希望者の家族と面談し、直接話を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にその時点で何が必要かを見極め、対応できることについては柔軟に対応している。その中で、場合によっては他のサービス機関に相談するような支援も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でできることを手伝ってもらっている。また、利用者との何気ない会話も、できるだけゆつくりと時間をとるように心掛け、気持ちを汲み取る努力をしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時には、利用者の日々の様子を話している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望に応じて外出するよう支援をしている。	入居時のアセスメントや普段の会話の中から、馴染みの場所や人の把握に努めている。また、電話や手紙のやりとりや外出等は、利用者の希望にできるだけ対応するよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう配慮し、利用者同士の仲の良さや悪しさを把握し、トラブルが起きないように配慮している。また、トラブルが起きた際も、悪い影響が残らないように対応に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を利用者や家族に示している。また、退居先の関係者にこれまでの情報も伝えている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や思い・希望を把握するよう努め、ユニット会議等で職員皆で意向等を確認し、検討している。	職員は利用者と一緒に過ごす時間を大切にしており、利用者が自分の意見を話しやすいような環境作りに努めている。また、把握が難しい場合には家族や関係者から情報収集を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴やライフスタイル、個性を把握するように、利用者の会話からも情報を得よう心掛け、ケース記録にまとめている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録で利用者の1日の生活リズムを把握するように努めている。また、利用者にはできることを無理のない範囲で行ってもらえるよう心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は全職員のアセスメントを基に作成している。また、状況変化時には随時見直しを行っている。	利用者や家族の意見を考慮した個別具体的な介護計画となっている。半年に1回モニタリングを行い、複数の職員で再アセスメントを行っており、変化が見られた場合はその都度見直しを行っている。また、利用者や家族の希望に変化がないか、職員は常に把握するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子をケース記録にしており、職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>公民館や図書館等、地域の資源を利用したりイベントに参加し、楽しんでもらえるよう支援している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、必要に応じて歯科・眼科の受診を支援している。</p>	<p>初回面談でこれまでの受療状況を確認し、継続して受診できるように支援している。通院方法や受診結果の伝達方法を家族へ説明して、納得を得ている他、検査結果等の話がある場合には家族にも同行してもらい、医療機関との情報共有ができるように取り組んでいる。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者から痛み等の訴えや異常が見られた時は、看護師に報告・相談し、対応している。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関と利用者に関する情報交換を行っている。また、家族も含めた話し合いを行う体制を整えており、退院に向けた支援も行っている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期について、家族の意向を踏まえ、医療機関や家族との連携を図りながら、支援していきたいと思っている。</p>	<p>看取りの指針はあるが今のところ事例はない。ホームとしてできることとできないことを伝え、早めに話し合いの機会を持って意思統一を図っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を受講している。緊急時対応マニュアルも作成しており、いつでも目が通せるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。災害時、消防署から協力が得られるよう、働きかけを行っている。	日中・夜間を想定した避難訓練を年2回実施し、運営推進会議で地域へ協力を依頼している。半年に1回業者による設備点検を行っている他、台風等の事前に予測できる災害には食料を1日分備蓄するが、それ以外の準備にまでは至っていない。	地震等の予測のできない災害発生時に備え、食料や飲料水、寒さをしのげるような物品等を用意することに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動を否定したり、拒否しないよう心掛けている。介助時や声掛け時は利用者の羞恥心に配慮しているつもりであるが、そうでない時があることは否めない。	基本的には利用者を名前に「さん」をつけて呼んでいる他、要望に応じて対応している。居室には暖簾をさげてプライバシーに配慮しており、個人情報情報はクローゼットに保管し、他者から見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示できない時でも表情や反応から読み取り、自己決定できるような場面作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の希望に合わせて支援できるよう努めているが、職員の都合を優先してしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、理容院への外出支援を行っている。衣類や整容の乱れはさりげなくサポートし、衣類等も清潔が保てるようにしている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に無理強いせず、できる方にはお手伝いをしてもらい、職員と共に作業に取り組んでいる。献立に利用者の苦手な物がある時は代替食で対応している。	利用者の嗜好を考慮して献立を作成しており、苦手なものには別のメニューで代替している。また、利用者ではできる範囲で皮むきや食器拭きの手伝いをしており、職員は食べこぼし等へのさり気ないサポート等を行っているが、利用者と一緒に食事を摂り、会話を楽しみながら食事時間を過ごすまでには至っていない。	職員は見守りと介助に専念しているが、できる限り利用者と一緒のテーブルにつき、食事を楽しむ時間を共有するような取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はケース記録に記録し、一人ひとりの状態に合わせて対応している。嚥下機能が低下した場合は、その都度ゼリーやお粥にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをしたり、一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じた支援をしている。また、毎食後に口腔ケアを行うように努めているが、実施できない時もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録している。おむつを使用する場合は、職員間にて使用方法等を共有し(話し合っ)て継続して使用しないように心掛けている。	ケース記録にて排泄パターンをチェックし、それに合わせて誘導し、おむつをなるべく使わないように支援している。また、利用者の羞恥心に配慮し、小声で誘導する等の配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に合わせ、下剤の使用量や間隔を調整している。また、起床時に冷水を提供したり、りんごを食べていただく等により、自然に排便できるよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の間隔が空きすぎたり、無理に促したりしないよう努めているが、入浴日や時間帯等は職員の都合になっている時もある。	入浴日は決めておらず、利用者の希望に応じて入浴できるように努めており、だいたい1日おきに入浴できるよう支援している。職員は利用者の入浴習慣に配慮しながら、30分位を目途に入浴介助しており、入浴を拒否する利用者には時間をずらして声がけする等、工夫している。	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握できるよう努めている。その日の疲れ具合に応じて休息を取り入れている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全利用者の薬の内容を把握できるように、個人のケース記録に用紙をファイルしている。頓服薬等がある時は、職員が分かるように明記し、周知を図っている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌・散歩・ドライブ等、本人の好きな物や大切にしている物を支援できるよう心掛けている。			
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の外出希望時は、できるだけ実行できるよう心掛けているが、日頃の状況により、難しい事もある。また、個人の希望よりも季節に応じた外出の方が多い。	予定の行事以外にも天候や利用者の状況に合わせて外出する機会を適宜設けている。また、利用者の希望にはできる範囲で対応し、必要に応じて家族へも協力を依頼している。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて利用者のお小遣いを預かっている。用途に関する事を家族に報告・相談し、同意を得ている。また、買物時、利用者が本人の能力に応じて支払いを行うことができるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごしていただけるよう、テレビの音量の他、職員が大声を出して話をしないよう気をつけている。また、季節を感じてもらえるような飾り物を工夫している。	テレビの前にソファを配置したり、昔の箆笥を棚として使用する等、家庭的な雰囲気を保てるように努めており、ホーム内の装飾品は少ないながらも、季節を感じられるような飾り付けをしている。また、日当たりもよく、不快な物音もなく、落ち着いて生活できる環境が整えられている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人のその時の気分に合わせて、自室やその他和室や談話室等を自由に行き来できるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していたり、愛用していた物等、馴染みの物を持ってきてもらうよう働きかけを行っている。	使い慣れた茶碗や馴染みの物の持ち込みをしてもらい、居心地の良い生活空間を利用者と共に作り上げている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが設置されている。利用者一人ひとりの状態を把握し、必要に応じて目印等の表示をする等の取り組みを行っている。また、居室には異なった暖簾をかけている。			